

PRESS RELEASE

長谷川理恵さんも参加！ 飼い主を無くした犬や猫の保護を呼びかけるチャリティイベント セーブ ペット プロジェクト 5月9日「フロントライン Save Pet Projectチャリティウォーク」参加募集 動物用医薬品企業、メリアル・ジャパン株式会社 および 日本全薬工業株式会社が共催

動物用医薬品企業である、メリアル・ジャパン株式会社(本社:東京都千代田区、社長:ミシェル・ラショセ)は、日本全薬工業株式会社(本社:福島県郡山市、社長:高野恵一)と共同で、犬や猫の殺処分の低減を目的とするキャンペーン「Save Pet Project(セーブ・ペット・プロジェクト)」を2010年5月1日(土)より開始します。

本キャンペーンは、ペットブームの陰で、捨てられるなどして殺処分される犬や猫の数(年間28万頭以上※詳細次頁)を減らすために、ノミ・マダニ駆除薬「フロントライン®」製品の売り上げの一部を、保健所や動物愛護センターから動物保護団体が保護した犬や猫の医療支援のほか、迷子になった犬や猫を無事飼い主の元に戻すためのマイクロチップ普及支援のために寄付するものです。

本キャンペーン開始に当たり、5月9日(日)11:00より、パレットタウン内パレットプラザ(東京・お台場)で、飼い主を無くした犬や猫を取り巻く現状や、そうした犬や猫を譲り受けることについてより多くの方々に知っていただくための「フロントライン Save Pet Project チャリティウォーク」を開催します。

当日は、ゲストに大の動物好きで知られる長谷川理恵さんをお招きして、パレットプラザを皮切りに周辺のコースを歩くチャリティウォークや、犬・猫を譲り受けた方に、飼い主を無くした犬・猫を育てる喜びや日々の暮らしについて語ってもらうミニトークショーのほか、動物保護団体による「ペットの譲り受け相談コーナー(仮)」などを実施します。チャリティウォークへの参加は先着制(50名様)、下記ウェブサイト(4月1日稼働開始)から事前登録が必要です。ミニトークショーや「ペットの譲り受け相談コーナー(仮)」は一般公開ですので、自由に観覧いただけます。

開催概要

- 名称: 「フロントライン Save Pet Project チャリティウォーク」
- 日時: 5月9日(日)11:00~13:00(「ペットの譲り受け相談コーナー(仮)」は15:00まで)
- 場所: パレットタウン内パレットプラザ(東京都江東区青海1丁目)
電車の場合 ゆりかもめ「青海駅」下車、りんかい線「東京テレポート駅」下車
車の場合 パレットタウンの駐車場のほか、周辺の公共駐車場をご利用可能。(有料)
- 内容: ①「フロントライン Save Pet Project チャリティウォーク」開会式
長谷川理恵さん=写真=や犬・猫を譲り受けた方などによるミニトークショーほか
②犬や猫を譲り受けた飼い主の方々とそのペット達によるチャリティウォーク
③動物保護団体による「ペットの譲り受け相談コーナー(仮)」など
- 主催: メリアル・ジャパン株式会社、日本全薬工業株式会社(共催)
- 協力: One Brand
- 参加: 無料(※ウォーク参加は先着50名様。下記ウェブサイトから事前登録が必要です)
Save Pet Project ウェブサイト(4月1日稼働開始): www.s-p-p.jp



※長谷川理恵さんやキャンペーンロゴの画像が必要な場合は、下記広報担当までご連絡ください。

®フロントラインはメリアルの所有登録商標

一般の方の問い合わせ先
Save Pet Project 事務局
TEL 03-5575-0523
Save Pet Project ウェブサイト(4月1日稼働開始)
www.s-p-p.jp

報道関係者の問い合わせ先(掲載不可)
Save Pet Project 広報担当
(株)ブレインズ・カンパニー(荻野・石原・李)
TEL 03-3496-1091 FAX 03-3496-2216
〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町2-9 カスヤビル
e-mail ogino@pjbc.co.jp

「Save Pet Project(セーブ・ペット・プロジェクト)」について

本キャンペーンは、ペットブームの陰で、捨てられるなどして殺処分される犬や猫の数を減らすために、ノミ・マダニ駆除薬「フロントライン」製品の売り上げの一部を、保健所や動物愛護センターから動物保護団体が保護した犬や猫の医療支援のほか、迷子になった時に犬や猫を無事飼い主の元に戻すためのマイクロチップ普及支援のため、以下の団体に寄付します。

「Save Pet Project」寄付先

ー 動物保護団体

保健所や動物愛護センターなどに収容された犬や猫の引き取りや、新しい飼い主探しなどを実施する以下の7団体に寄付します。寄付金は、これらの団体で保護されることになった犬や猫のための医療支援に使われます。

NPO法人 ARK/千葉わん/Dog Shelter/NPO法人 日本動物生命尊重の会/Happy Labs/PAK(Paws Adoption かながわ)保健所の犬・猫を救う会事務局/NPO法人 保健所の成犬・猫の譲渡を推進する会

※上記団体へは、殺処分低減のためのドネーション活動「ONE LOVE」プロジェクト(※環境省が活動一部を後援)を推進する、人とイヌのライフスタイルマガジン「ONE BRAND」を通して寄付を行います。

ー 社団法人 日本獣医師会

同団体による、迷子や逸走、あるいは事故に遭遇した犬や猫を無事飼い主の元に戻すための、個体識別を可能にするマイクロチップ普及活動。この活動支援のために寄付を行います。

また、問題の根源は、犬や猫を捨てる飼い主が後を絶たないことにあるとし、飼い主と犬や猫との健康で幸せな共生を支援するためにキャンペーンウェブサイトにおいて啓発活動を行います。また、TVCMなどを通して、多くの方々に動物福祉への関心を高めてもらうための情報発信をしていきます。

ペットの殺処分は年間 28 万頭以上。環境省、殺処分半減を目指して 90 カ所の施設整備へ

空前のペットブームのなか、日本における犬や猫の飼育数は依然として年々上昇傾向にあります(2008年飼育頭数:犬 13,101,000 頭、猫 13,738,000 頭[※ペットフード協会調べ])。

一方、その陰で人間の都合により、保健所や動物愛護センターで引き取られた犬や猫の数は、年間 26 万頭以上。さらに捕獲された犬は年間6万頭以上と、収容された犬や猫は合計で 32 万頭以上に上ります。国、自治体や動物保護 NPO 法人により、そうしたペットの飼い主を探す活動が懸命に行われ、犬や猫の譲渡数が増え、殺処分の数は減少傾向にありますが、それでも殺処分される犬や猫の数は年間 28 万頭以上にも上ります。(※地球生物会議 ALIVE 調べ[<http://www.alive-net.net/>])。つまり、現状として、保健所や動物愛護センターに収容された犬や猫の約 9 割は殺処分されているのです。

環境省は 2009 年度より、犬や猫の殺処分半減を目標に、新しい飼い主探しを促進するために全国 90 カ所の施設を整備する事業に乗り出すなど、飼い主を無くした犬や猫の殺処分問題についての社会的関心は、昨今少しずつ高まりを見せています。

ノミ・マダニ駆除薬「フロントライン」

ノミ・マダニ駆除薬「フロントライン」は、動物用医薬品メーカー、メリアルが製造しています。日本においては、メリアルの日本法人、メリアル・ジャパン株式会社を輸入元として、日本全薬工業株式会社(企業ブランド:ゼノアック[ZENOAQ])が販売しています。本製品は、動物病院のみで処方されています。

メリアルは多くの動物の健康と福祉および生産性の向上のために様々な製品を提供している、研究・開発主導型の動物用医薬品分野における世界のリーダー企業です。150 カ国以上に販売網をもち、2008 年の年間販売高は 26 億ドル(2,500 億円)以上です。メリアルはサノフィアベンティス社を親会社とする世界企業です。

ゼノアックは動物用医薬品の開発・製造・輸入・販売までを一貫して行っています。GMP対応の生産体制、GLP対応の研究開発体制(専業メーカーで唯一の中央研究所と臨床研究牧場を保有)、そして業界で唯一、自社の販売拠点を全国 41 箇所に展開。国内そして世界の優良企業とも積極的な業務提携を推進し、強固なパートナーシップを結んでいます。